

歴史点描 24 絵馬を訪ねて講演会開催

網干交流館歴史講座の開設から早や2年が経とうとしている中、当講座では親子2代に渡り絵馬の研究をされている神戸史学会所属の増田行雄先生を、5月の講座の外部講師としてお招きした。増田先生はお父様増田重信氏の何十年にもわたり、地道に記録されていた絵馬の研究をデータ化し、現在の絵馬の状況も再調査されています。

当日20名程の参加者で先生の気さくなお人柄か、和気藹々と進行し初めに絵馬の説明を伺い、古くは生き馬献上に始まり馬形献上(木馬)→板立馬→絵馬と日本人の古来からの願いと感謝のかたちが変わったもののひとつで、雨乞いには黒馬を、雨が止み日照りを願うときは白馬が奉納されていました。

当会員平山さんのプロジェクター調達、及び有本さんのサポートにより播磨地方のたくさんのお絵馬が映し出され、長年風雨にさらされている環境から劣化し、保存状況の良くない物も鮮明に目にすることが出来ました。網干地区では大型絵馬と言われる、津市場の稲荷神社に掲げられている「火揚げの絵馬」は津田實氏の『津市場民土歴考誌』によれば、元治2年(1865)に奉納者2人による大きさ横1間、巾3尺の絵馬であり、興浜の表具師嘉左衛門、網干の絵師である小野周文氏父の揮毫である。上郡町・相生市・姫路市の現存忘失状況3地区の比較についてもお話しいただき、最後に「歴史は過去ではありません。未来への文化資源です」と結ばれました。

<絵馬画像提供は増田行雄氏>

網干歴史講座会員 御津町肥塚昭子



火揚げ絵馬 1



火揚げ絵馬 2



津市場稲荷神社



講演会風景